

東京藝術大学

美術学部 | 大学院美術研究科

油画 2015

PAINTING

Oil Painting 2015

Faculty of Fine Arts | Graduate School of Fine Arts

Tokyo University of the Arts

油画の風景

東京藝大油画では、美術・造形表現の根幹である「絵を描く」という基礎を踏まえながら、さらに新しい表現活動に挑戦する専門家の育成を目指しています。多様なメディアにまで拡張された現代の表現に対応すべく、日々、さまざまな授業を展開しています。そして藝大油画という創作の現場で力を養った学生たちが、世界へと羽ばたいていくことを願っています。

星野 陽子 [絵画科油画専攻 3年生]

『 thing // thing 』
ミクストメディア
サイズ可変
2014

自分の絵画空間を三次元に置き換える。
自分の空間の捉え方、自分は何を考え物を配置していくのか、また、自作の平面作品においての絵の具は三次元に起こした時に何に置き換えることができるのだろうか、そんな事を考えて制作した立体のドロ잉グです。
その時々光や、物と物とが響き合って新しく生まれる形や色。赤と黄色の壁があれば、その間は何色の空間になるのだろうか。これは、それらの現象によるイメージの集積の場であり、自分の触れることの出来ない「物と物の間」についての作品です。

高畠 依子 [大学院美術研究科博士後期課程美術専攻油画 3年生]

水辺
油彩、パネル
65 × 65 cm
2015

Copyright the artist. Photo by Shigeo Muto. Courtesy ShugoArts.

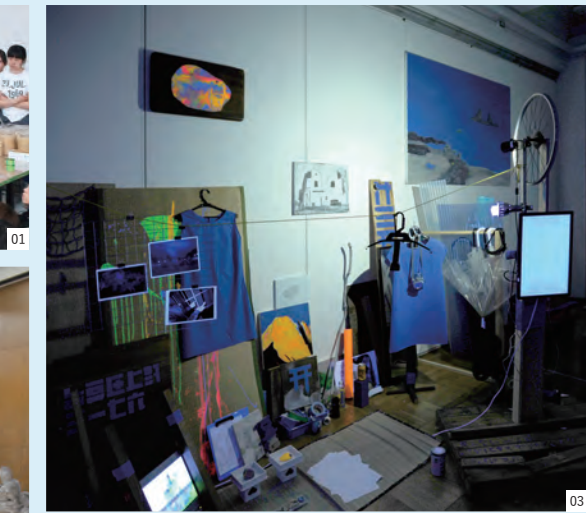
油絵具を“糸”に見立て幾重にも線を重ね、一枚の布を織るように描いている。心の中にある美の「風景」を再構築し“風景のヴェール”を表象したいと思い、絵具の糸を紡いでいる。

「水辺」

憂鬱、ネオン 悲しみ、空、悪、ルージュ、愛、葉っぱ、誕生、花、陰影、木、心、喜び、すべてを映し混じり合う。朝の光が照らすくらめく水辺、揺れている。流れは絶えることなく、同じ時はない。

油画のカリキュラム

ドローイングから表現活動へ



美術学部

学部1年生

基礎課程 [学部1, 2年生]

※平成28年度より、これまで取手キャンパスで行なっていた学部1年生の授業を上野キャンパスに統合し、基礎課程の一体化教育が行なわれる予定です。

学部2年生

1年次は、通年の共通課題として、絵画造形全般の基礎としてのドローイングを中心に据えながら、絵画の基礎的要素（イメージ・物質・行為・環境）を提示した基礎実技指導を行なっています。また、壁画実習や地塗実習に取り組み、絵画の発生から技法・材料に係わる基本を学びます。

2年次は、1年次で学んだ絵画の基礎的要素の更なる可能性を探っていきます。通年、様々な選択カリキュラムが開設され、学年末には基礎課程の最後として、制作と展示を行ないます。展示は「進級展」として一般公開されます。全教員が作品を審査し、合格した者が3年次からの「専門課程」へと進むことになります。

学部3年生

専門課程 [学部3, 4年生]

学生は3年次より以下の3コースに分かれ、各担当教員のカリキュラムに基づいた創作研究を行ないます。

- 絵画表現コース
- 素材と表現コース
- 現代美術表現コース

学部4年生

専門課程においては、学生個々の自主的な創作研究が中心となり、基礎課程を踏まえ、自己の表現の内容とその表現手段を展開し深化させる専門実技指導を行なっています。3年次より絵画表現・素材と表現・現代美術表現の3つのコースに分かれ、より専門的な創作研究を行ないます。また3年次には、2週間にわたる奈良・京都を中心にした古美術研究旅行があり、古典芸術と出会うことで、新たな自己を発見する機会が設けられます。古典から現代にまで続く芸術表現の多様性に応じて、学生が自己の資質を発見し、独自の表現とその表現手段を深化させていく過程が、基本的な学部の4年間です。その成果として「卒業制作」があり、その作品制作に4年次の1年間で与えられています。

大学院美術研究科

修士課程1, 2年生

修士課程は、自己の表現領域において更に専門的に創作研究を行ない、社会に対応する独創性豊かな人材を育成するため、各研究室担当教員の徹底した個別指導のもと、独自性を尊重した教育を実践しています。同時に、複数の研究室による共同企画や合同授業によって横断的な連携指導も行なわれています。また、他分野の専門領域の理解を深め、表現内容とその表現手段を、社会に対応する美術表現に結びつける方法を修得するために、学外から数多くのアーティスト、キュレーターや評論家を招き、多角的な側面からの集中講義も開設しています。

博士後期課程1, 2, 3年生

博士後期課程においては、博士学位取得を前提とし、制作、理論双方を担当教員と、それを補佐する複数の教員によって、より高度で総合的かつ複合的なグループ指導が行なわれます。さらには協定校との交換留学や共同プロジェクトにより国際的美術活動を展開し、自己の創作研究活動を社会に向けて発信できる専門家育成のための指導を行なっています。

国際交流

グローバルなシーンへ羽ばたくために

交換留学への取り組み

国際的なアーティストを目指すためにチャレンジする

本専攻は本学開校以来、国際的視野に立つて創造研究を行ない、多数の学生が海外へ留学しています。近年は国際交流協定校の増加に伴い、欧米だけではなくアジアへの留学生も増え、積極的な国際交流が行なわれています。パリ国立高等美術学校、ロンドン芸術大学、グリフィス大学、中国美術学院、シカゴ美術館附属美術大学など、毎年様々な国々との交換留学、交流展、合同授業、ワークショップ等を国内外で実施しています。

平成 27 年度油画 芸術国際交流協定校への短期留学 派遣計画

中国	中央美術学院、清華大学美術学院、中国美術学院
韓国	ソウル大学校美術大学、韓国芸術総合学校、大邱大学校造形芸術大学、韓国伝統文化学校
台湾	国立台南芸術大学（※大学院のみ）、国立台湾芸術大学、国立台北芸術大学
シンガポール	ラサール・シア美術大学
オーストラリア	シドニー大学、グリフィス大学（※大学院のみ）
イギリス	ユニバーシティ・カレッジ・フォー・ザ・クリエイティブ・アーツ（※大学院のみ）、ロンドン芸術大学（※大学院のみ）、ロイヤルアカデミースクールズ（※大学院のみ）
ドイツ	ワイマール・パウハウス大学、ハレ・ブルグ・ギービヒェンシュタイン芸術大学、シュトゥットガルト美術大学
フランス	パリ国立高等美術学校（※大学院のみ）、ナント芸術大学
オーストリア	ウィーン応用芸術大学（※大学院のみ）、ウィーン美術アカデミー
ポーランド	プロツワフ美術大学（※大学院のみ）
トルコ	アナドル大学、ミマール・シナン美術大学
スコットランド	グラスゴー美術大学（※大学院のみ）
タイ	シラバコーン大学（※大学院のみ）
イスラエル	ベツアルエル美術デザインアカデミー

留学生の受け入れ

互いの文化を知り、意識を深める

国際性と大学院教育の高度化、国際交流を促進するために、留学生受け入れと在学生の派遣の拡大を積極的に推進しています。これまでに韓国、中国、タイ、インド、パキスタン等のアジア諸国をはじめフランス、ドイツ、オーストリア、アメリカ、カナダ、オーストラリア等、多数の留学生が本専攻に在籍し、様々な国の表現活動によるコミュニケーションが行なわれています。

英語教育の充実

コミュニケーション能力の育成

本専攻は独自の英語プログラムを実施しており、外国人講師による、アーティストとして活動するために必要な英語を学ぶ授業がカリキュラムに組み込まれています。渡航や海外での活動を想定しながらの実践的な授業内容で、語学としての英語はもちろんのこと、国を越えてのものづくりを想定したコミュニケーションを学ぶ場となっています。

油画英語演習授業（非常勤講師：ジェイミ・ハンフリーズ）



左 | 油画英語学習の様子 右 | 平成 26 年度石橋財団国際交流油画奨学生（渡航先：タイ・シラバコーン大学 アトリエ風景）



石橋財団

国際交流油画奨学生制度

挑戦する学生への支援

本奨学金制度は、油画の優秀な学生に対し、夏休み期間などを利用した海外での研究活動のための資金と渡航費を援助する、本専攻独自のプログラムです。本学の交換留学制度との併用も可能であり、学生自らが研究計画を立て実行します。平成 27 年度は、学部、修士あわせて 8 名の学生が海外での自主活動やリサーチを行ない、帰国後には学内での成果報告展示も予定しています。

卒業後の活動

油画の創作実習から将来につなげる

油画学生の卒業後の活動

個展、公募展、社会活動等で自作品を発表し、作家活動を開始する者をはじめとして、小・中・高等学校や国内外の芸術・美術・教育系の大学の教員、また、美術系予備校、専門学校などの講師に採用される者も多くいます。近年では、美術館のキュレーターや、ゲーム・画像コンテンツ作成など企業への就職も増加しています。また、国費留学生や私費留学生として海外へ留学する者も多数います。

加藤 翼 [2010 年 大学院美術研究科絵画専攻油画 修了]

「The Lighthouses — 11.3 PROJECT」
2011 | 福島県いわき市
撮影：宮島 径



藝大油画在学生・卒業生による主な受賞および受賞展

過去 5 年間の抜粋

art award tokyo marunouchi (2010 ～ 2014、審査委員賞ほか)
NBC メッシュテック東京国際版画ビエンナーレ (第 2 回～第 4 回、大賞ほか)
第 4 回 shiseido art egg 賞
TURNER AWARD (2010 ～ 2014、大賞ほか)
VOCA 展 (2010・2013・2014、大賞ほか)
アダチ UKIYO E 大賞 (第 2 回～6 回、大賞ほか)
第 55 回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本代表
ゴールドコンペティション (2012、大賞ほか)
シエル美術賞展 (2010・2012、審査委員賞ほか)
トーキョーワンダーウォール公募 (2010～2014、トーキョーワンダーウォール賞ほか)
第 7 回 はるひ絵画トリエンナーレ準大賞
第 1 回 ホキ美術館大賞館長賞
岡本太郎記念現代芸術賞 (第 16 回・17 回・18 回、岡本敏子賞ほか)
第 68 回 恩賜賞・日本芸術院賞
第 10 回 熊谷守一大賞
2011 年芸術選奨新人賞
芸術選奨文部科学大臣賞受賞 (2013・2014・2015)
第 5 回 絹谷幸二賞

第 5 回 山本鼎版画展 優秀賞
上野の森美術館絵画大賞 (第 29 回・32 回・33 回、優秀賞ほか)
第 2 回 青木繁記念大賞西日本美術展 特別賞 (わだつみ賞)
群馬青年ビエンナーレ 奨励賞 (2015)
第 14 回 南島原市セナリヨ版画展 セナリヨ大賞
全国大学版画展 町田市立国際版画美術館収蔵賞 (第 35 回～39 回)
損保ジャパン美術賞展 FACE 2013 審査員特別賞
日本版画協会 版画展 (第 78 回～82 回、日本版画協会賞ほか)
六本木クロッシング 2010 展 特別賞
第 6 回 佐野ルネッサンス銅金展 第 2 部門：表現の可能性を探る造形作品 大賞
第 8 回 ALBION AWARDS 2012 金賞受賞
現代日本美術会 大賞 (2011)
宮城県芸術選奨 (2011)
「芸術活動奨励賞」(財)朝日新聞文化財団 (2010)
「美術に関する国際交流」(財)吉野石膏美術振興財団 (2010)
佐藤国際文化育英財団 (2013・2014)
ほか

藝大油画卒業・修了生の主な就職先

過去 5 年間の抜粋

東京藝術大学	株式会社図書館流通センター	株式会社ビヨンクール	東京都美術館
愛知県立芸術大学	株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメント	都築雄二デザイン室	株式会社生活の友社
多摩美術大学		株式会社カブコン	カウモ株式会社
東京造形大学	歌舞伎座舞台株式会社	株式会社ガブスモバイル	株式会社サイバーエージェント
女子美術大学	株式会社サイトウマコトデザイン室	朝日カルチャーセンター	株式会社カヤック
京都精華大学	株式会社ニュートンプレス	株式会社 MUGENUP	株式会社アンデルセン
京都造形芸術大学	クリエイティジー株式会社	株式会社アドテイス	株式会社オーシャンルート
東京工科大学	ターナー色彩株式会社	東京リスマチック 株式会社	株式会社世界堂
東北師範大学美術学院	株式会社セガホールディングス	株式会社ミツエーリンクス	株式会社 Office Toyofuku
	株式会社ボディーワーク	株式会社アートカフェ	ほか

油画の教員と研究室紹介

ここだからこそでできること
油画教員より皆さんへ

小林 正人 KOBAYASHI Masato

准教授 | 油画第 1 研究室

-

プロの画家、ただし既成概念に囚われない色々なタイプの画家の輩出を目指す。生まれてきたこの世界に自分は絵で何をしたいのか?! 夢、ビジョンを強く持って好きな事をどれだけ真剣にやるか、失敗する勇氣! ハートとテクニクを徹底的に磨いて欲しい。

O JUN O JUN

教授 | 油画第 7 研究室

-

第 7 研究室では新たな絵画の可能性を試みます。ゼミや社会見学、集中講義を通し様々な人や場所を横断しながら思考すること。アトリエに於いては日々の制作のなかで作品と向き合う各々の身体に問うこと。そして絵画という方法を以て世界と応答せよ、応答せよ!

小山 穂太郎 KOYAMA Hotaro

教授 | 油画第 2 研究室

-

フィールドワークを通して、外界に敏感な感性を持って創作を試みる。絵や映像、画像イメージが生み出されるなかで、本当に見えてくるものとはなんなのだろうか、実験精神を発揮して、発見と新たな経験を求める「旅」のような作品創作の時と場を考えている。

三井田 盛一郎 MIIDA Seichiro

准教授 | 版画第 2 研究室

-

版画第 2 研究室では日本の伝統に根ざし、木版画とスクリーンプリントを中心に素材、歴史、概念および現代の問題を様々な角度、方向から研究します。思考するための起点、基軸、座標を明確にすることで新しい視野、制作のバースペクティブの獲得を目指します。

坂口 寛敏 SAKAGUCHI Hirotooshi

教授 | 油画第 3 研究室

-

強靱な個から生み出され、メッセージ性の強い様々な美術表現を展開している学生達が、全国、世界から集まっている。分析力、批評力を養いながら更に自由に個別の表現研究を進めるとともに、アートプロジェクト研究活動も同時並行に行える意欲的な人材を求む。

中村 政人 NAKAMURA Masato

准教授 | 壁画第 1 研究室

-

国際的な現代美術シーンから地域芸術文化振興までアートと社会を有機的につなぐアートプロジェクトを実証的に研究。オルタナティブかつサステナブルな社会意識と実践的スキルを企画展制作やアートプロジェクト、アーティストインレジデンス等に参加し学んでいく。

杉戸 洋 SUGITO Hiroshi

准教授 | 油画第 4 研究室

-

一年かけて自分の粹をつくること。二年目はそれに抜け口をつくること。または分解出来るようにしておくこと。輪ゴムを切って結んだようなフレームも好き。

工藤 晴也 KUDO Haruya

教授 | 壁画第 2 研究室

-

壁画第 2 研究室はモザイク・フレスコ・ステンドグラスを開設する日本で唯一の研究室です。これらの専門領域を学ぶと共に絵画の原点に立ち返り、環境と素材・表現の関係を思索しながら個の表現能力を養い、現代社会に対応する壁画の創作研究を実践しています。

保科 豊巳 HOSHINA Toyomi

教授 | 油画第 5 研究室

-

第 5 研究室では現代美術の分野における「身体と関わる環境、社会、時間との関係性」を中心的な研究テーマとし様々なプロジェクトを行なっている。作品は、インスタレーション、メディア、など様々な媒体を使用し現代表現を創造する目的をもっている。

齋藤 芽生 SAITO Meo

准教授 | 油画技法・材料第 1 研究室

-

油画技法・材料第 1 研究室では、多様な素材や表現方法を研究する。また、自己の美術外の人生経験をも丁寧に見つめつつ、「人間の普遍」と「個人の人生の深層」を同時に語り得る、濃密な表現を探究する。

坂田 哲也 SAKATA Tetsuya

教授 | 油画第 6 研究室

-

絵画による制作研究を作品の独自性を尊重しつつ、学内外の企画展、個展や集中講義、異なる表現の文化を体験し、制作と日常の関係をも自身の絵画表現の中に取り込む姿勢を目指す。リアルな日常の地道な制作のドキュメントが、魅力ある新鮮な作品へと変貌を遂げる。

秋本 貴透 AKIMOTO Takayuki

准教授 | 油画技法・材料第 2 研究室

-

油画技法・材料第 2 研究室では、自己表現としての絵画制作を中心に「油絵とはどのようなものか」という課題に絵画材料・技術の側面から取り組む。またゼミでは、デジタル技術実習、ディスカッション形式での研究発表、展覧会の企画、作品発表を行ない、自らのスタイル、方向性を探究していく。

非常勤講師 油画

ジェイミ・ハンフリーズ Jaime HUMPHREYS

福住 廉 FUKUZUMI Ren

保坂 健二郎 HOSAKA Kenjiro

竹村 京 TAKEMURA Kei

皆川 俊平 MINAGAWA Shumpei

高倉 吉規 TAKAKURA Yoshinori

非常勤講師 版画

板津 悟 ITAZU Satoru

宮寺 雷太 MIYADERA Raita

非常勤講師 壁画

好宮 佐知子 YOSHIMIYA Sachiko

非常勤講師 油画技法・材料

長谷川 健司 HASEGAWA Kenji

後藤 温子 GOTO Atsuko

助教

寺内 誠 TERAUCHI Makoto

藝大油画の構成

東京藝術大学 Tokyo University of the Arts

美術学部 Faculty of Fine Arts

絵画科油画専攻

| 1 - 4 年

大学院美術研究科 Graduate school of Fine Arts

修士課程 絵画専攻 | 1, 2 年

[研究分野]

油画

第 1 研究室 [小林正人 准教授]
第 2 研究室 [小山穂太郎 教授]
第 3 研究室 [坂口寛敏 教授]
第 4 研究室 [杉戸洋 准教授]
第 5 研究室 [保科豊巳 教授]
第 6 研究室 [坂田哲也 教授]
第 7 研究室 [O JUN 教授]

版画

第 1 研究室 ※ 2015 年 10 月より着任予定
第 2 研究室 [三井田盛一郎 准教授]

壁画

第 1 研究室 [中村政人 准教授]
第 2 研究室 [工藤晴也 教授]

油画技法・材料

第 1 研究室 [齋藤芽生 准教授]
第 2 研究室 [秋本貴透 准教授]

博士後期課程

美術専攻

| 1 - 3 年

[研究領域]

油画

絵画棟（上野校地）からの風景

油画 入試内容

絵画科油画専攻に在籍し、学業および実技が続けられる資質を選考するために、以下の内容の入学試験を課しています。

学科試験

学科試験は「センター試験」を採用しています。絵画科油画専攻の受験者には、実技能力だけではなく、自然科学、人文科学、語学といった幅広い分野の知識が要求されるので、3教科3科目を受験してください。

実技（1次）「素描」

この試験は、出題された内容を「素描」によって表現するものです。

出題を（1）どのように理解したか、（2）どのように観察したか、（3）どのように表現できたか、以上の3点を主に絵画表現の基礎的な描写力を評価します。

実技（2次）「絵画」

この試験は、受験生の資質と作品の独創性を問うもので、出題された内容を「素描・油彩」によって表現するものです。

「素描」では、出題された内容にしたがって、受験生の（1）構想力、（2）構成力、以上の2点を主に素描における個人の創造力を評価します。

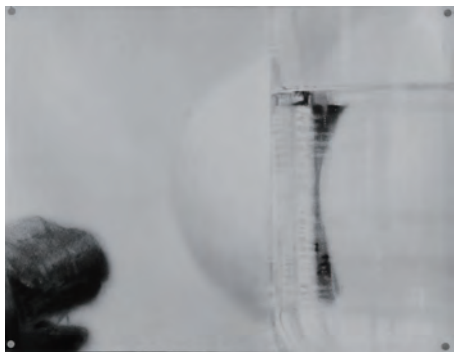
「油彩」では、上記の内容に加えて、形態と色彩による総合的な造形表現能力を評価します。

以上、学科・実技のすべてを加えて、総合的に判断し、受験生の中から適性者を選抜します。

第1次実技試験

素描

◎出題 | モチーフを描きなさい。

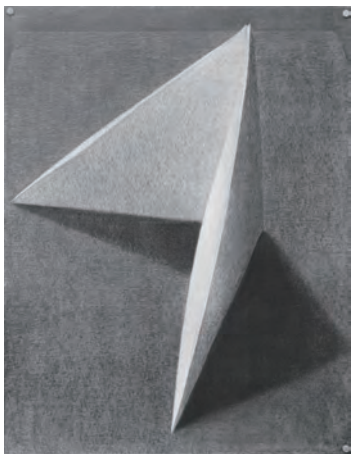
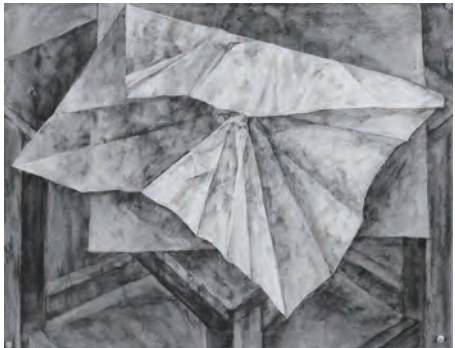


第2次実技試験

第1日目 絵画

◎出題 | 折り紙を好きな形に折って、それをモチーフにして描きなさい。

配布物 | 折り紙2枚
[注意] 折り紙1枚を使用すること（あと1枚は練習用として使用してもよい。）



第2日目・第3日目 絵画

◎出題 | 私の部屋を描きなさい。

- ・人物を入れること。
- ・試験室にセットしてある4色のうち、1色以上を用いること。



入学科・授業料

入学科：282,000 円※ 授業料（前期分）：267,900 円（年額 535,800 円※）※予定額

入学科・授業料の免除・徴収猶予制度

経済的理由などにより学費の納入が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合は、選考のうえ、入学科、授業料が免除・徴収猶予される制度があります。申請要件は次のとおりです。

1. 入学科免除

- （1）経済的理由により授業料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる場合
- （2）入学前1年以内に、申請者の主たる家計支持者の死亡または申請者本人もしくは申請者の主たる家計支持者が風水害等の災害を受けたことにより、入学科の納付が著しく困難であると認められる場合

※学部入学者は上記（2）を満たしていることが必要です。

2. 入学科徴収猶予

- （1）経済的理由により入学科の納付期限までに入学科の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる場合
- （2）入学前1年以内に、申請者の主たる家計支持者の死亡または申請者本人もしくは申請者の主たる家計支持者が風水害等の災害を受けたことにより、入学科の納付期限までに納付が困難であると認められる場合
- （3）その他やむを得ない事情があると認められる場合

3. 授業料免除

- （1）経済的理由により授業料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる場合
- （2）授業料の納付前6か月以内（新入生の場合、入学前1年以内）に、申請者の主たる家計支持者の死亡または申請者本人もしくは申請者の主たる家計支持者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難であると認められる場合

4. 授業料徴収猶予

- （1）経済的理由により授業料の納付期限までに納付が困難で、かつ学業優秀と認められる場合

大学予算により許可枠が決定するため、資格要件（家計基準・学力基準）を満たした者全員が許可されるものではありませんが、本学では例年、50名程度の申請者のうち約8割の学生が本制度により授業料の全額もしくは半額を免除されています。

奨学金

各自が申請する奨学金

日本学生支援機構奨学金制度

地方公共団体及び財団法人奨学金制度

（石橋財団国際交流油画奨学生 ※油画学生のみ対象／
神山財団芸術奨学プログラムなど）

私費外国人留学生に対する奨学金制度

（神林留学生奨学会など）ほか

東京藝術大学奨学金制度

安宅賞奨学金

久米桂一郎奨学金

上野芸友賞奨学金

俵奨学金

平山郁夫奨学金

〇氏記念賞奨学金

野村美術賞奨学金 ほか

個人又は団体等から本学へ寄附された基金等をもとに、学業優秀な学生又は研究室等に学費等を給付している制度です。本人の応募によるものでなく、学年末試験、課題提出等の成績優秀者に授与している奨学金です。

OIL

東京藝術大学
美術学部 | 大学院美術研究科
油画 2015

編集・発行 東京藝術大学 油画
印刷 渡辺印刷株式会社

〒110-8714 東京都台東区上野公園 12-8
<http://getdai-oil.com>

※本誌に掲載されている情報は2015年6月1日現在のものです。図版および文章の無断転載を禁じます。
© Oil Painting, Tokyo University of the Arts. All rights reserved.

2015